

## DIVERSITY NEWS

2016.2.24



平成27年度両立支援セミナー「介護と仕事」

## 親の介護はプロジェクト 戦略をたてて動こう

講師：太田 差恵子 NPO法人パオッコ理事長  
介護・暮らしジャーナリスト



1月14日、平成27年度両立支援セミナー「介護と仕事」を本学教職員、学生、一般を対象として開催し、NPO法人パオッコ理事長の太田 差恵子氏より、「親の介護はプロジェクト 戦略をたてて動こう」をテーマにご講演いただきました。

はじめにダイバーシティ推進室 副室長 瀬尾 美鈴教授より、セミナー開催の目的と、講師紹介を含む開会挨拶がありました。

次に講師より仕事をしながら親の介護をすることとはどのような状況であるか例を提示いただき、ケーススタディ形式でムリをせず親をささえる方法を紹介いただきました。太田氏はまず、プロジェクト感覚で親をささえることを意識することが大切であると話され、①課題を探る、②介護保険を申請する、③情報収集する、④チームを組む、⑤介護資金をプランする、ことを順に説明されました。

課題を探るということでは、まず親としっかり対話することがキーになると話され、認知症が疑われるのであれば医療機関を受診することが必要であると説明されました。介護保険の申請については、市町村の窓口で申請代行をお願いすることができるが、たとえ離れて住んでいても認定調査時には付き添うよう助言がありました。高齢者のサポートについては地域包括支援センターが統括しているので、親の暮らす地域を管轄するセンターに相談することが情報収集に有効であるとのことでした。情報収集には介護サービスに関する

ことだけでなく、自分の職場の制度も情報収集するとともに、職場の周囲の人に伝えること、支え合うことを考える必要があると話されました。きょうだいがいる場合はチームを組み役割分担をすること、介護資金は親のお金でプランニングすることが基本であるが、介護資金を含め、きょうだいで情報共有することが大切であると示されました。

親のお金で介護を行うことは、相続でもらうよりもずっと生きた使い方であること、場合によっては介護保険以外のサービスの利用を検討したり、自宅での介護が困難な場合は施設入所も検討するなど、資金計画を立てるとともに戦略的に動くことの重要性を強調されました。高額療養費・医療費に関する公的な支援制度や航空運賃の介護帰省割引など民間のサービスについても情報を把握し、有効に利用していく姿勢が重要であると話されました。

講演後は参加者からの質問に答える形で質疑応答を行い、最後に学長室 物部 剛課長が本日のセミナーの意義と聴講の感想を述べ、閉会の挨拶を行いました。

参加者はセミナーを通し、突然の介護の発生時に社会生活を続けながら介護に向き合うために必要な知識やスキルを学ぶとともに、周囲への伝え方、同僚から介護に直面したことを伝えられた時の対応など、個人としてだけでなく、職場全体で、介護に備えることの大切さを共有しました。



## 第4回 Koyama 女子カフェ



1月15日、女子学生・女性研究者を中心とした交流会「Koyama女子カフェ(第4回)」を実施しました。

文化学部の中川 さつき准教授より「オペラにみる宮廷社会の恋愛観 女らしさ・男らしさって何だ？」をテーマに話題提供があり、オペラ「ポッペア」での男女の会話を通して、当時の男性・女性像を現代と比較しました。また、当時の大スターであったイタリア文化のカストラート(去勢された男性歌手)を日本文化の歌舞伎の女形と対比させながら考えました。中川先生からは、フランス革命期以前は、遅くしたたかに生きる女性と意思決定力の弱い男性というモチーフがオペラの題材であり、美の象徴は女性ではなく少年であったとの解説がありました。

女子学生・女性研究者だけでなく、男子学生、男性研究者の参加もあり、学生には研究職への身近さに触れる機会、教員には学内交流の機会提供の一助となりました。



2月16日、平成27年度第3回研究力向上セミナー「マインドマップセミナー」を開催し、名古屋大学男女共同参画室 榎原 千鶴准教授より、思考の見える化技術「マインドマップ」を学びました。

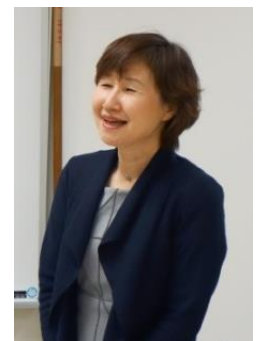
マインドマップは、発想の拡大、思考の整理、問題解決などに役立てることができる時間短縮に有効な思考技術で、思考を“見える化する”ことができます。

セミナーでは、マインドマップは中央に配置するキーワードを示すイメージ、弧を描く線、単語の3つの要素で構成されているとの説明があり、キーワードを表現する絵の作成に最も集中して取り組むことが必要であること、緊張している状態では発想の拡がりに期待できないので、リラックスできる状態を整えることが大切であるとの説明がありました。マインドマップ作成用のソフトウェアもあるそうですが、グループ

で共有したり、何回も利用するなどの用途でない限り、手書きが推奨だそうです。マインドマップの応用範囲は広く、授業ノート、会議記録、打合せメモ、スケジュール管理、プレゼンテーション準備など、どんな場面でも利用できると紹介がありました。

受講者はワークショップを通してマインドマップ作成の7つのルールを学び、講師より「3週間、1日1マップを続けたら自分のものになる」、「多くの場合、マップは他人に見せるためのものではないので、絵に苦手意識を持たない」と継続の大切さと励ましの言葉をいただきました。

講習会後には、名古屋大学男女共同参画室の取り組みについて事例紹介をいただき、大学の経営戦略としてポジティブ・アクション、女性研究者支援を推進することの重要性をご示唆いただきました。



## 平成27年度第3回 研究力向上 セミナー

